

Press-release/E-flashから

『ITUジャーナル』編集部

Press-release

①2月8日:

ITU自動車のICT技術ワークショップを開催
ジュネーブ国際モーターショーで”The Fully Networked Car”
 The Fully Networked Car at the Geneva International Motor Show
 ITU to Host Workshop on Information and Communication
 Technologies in Vehicles

(出典: http://www.itu.int/newsroom/press_releases/2005/NP02.html)

世界最大級の自動車ショーであるジュネーブ国際モーターショーで、ITUとISOが3月2～4日にワークショップを共催する。“The Fully Networked Car”と銘打った、自動車のICTに関するワークショップで、自動車業界とICT業界関係者の双方にとってユニークな意見交換の場所となる。本ワークショップは一般にも公開され、無料。衝突を避けるための車々間通信や汎ヨーロッパの緊急通報システム、死亡者の減少や衝突による怪我の軽減のための緊急自動連絡システム/e-call、また標準開発機関/SDOs (Standards Development Organization) や産業界での開発の重複を避けるための情報交換の方法などが議論される。政策決定へ向けたセッションも予定されており、利用者と企業の在り方、車業界とテレコム業界の連携、また技術面ではテレマテックス、診断、安全性、車内通信システムと既存の通信システムとの融合等も議論される。BMW、Bosch、シスコ、フランステレコム、Mangna エレクトロニクス、モトローラ、日産、NTT ドコモ、スイスコム、ボルボなどの上級幹部がスピーチする。

“The Fully Networked Car”ワークショップは、モーターショーの期間中2005年3月2～4日に、ジュネーブのPalexpo, the Congress Centerで開催される。

E-flash

②SPU Monthly News Flash (2月)

(出典: <http://www.itu.int/osg/spu/spunews/2005/february05.html>)

1. ユビキタスで災害復旧支援 Ubiquitous Technology Spearheads Disaster Relief
 2004年12月26日に起きたインド洋の悲劇は、人類のもろさを改めて思い起こさせるものとなった。どんなに技

術が進化しても、地震や津波を防ぐことはできないが、津波が引いた後に被災者を支援できる電気通信技術がある。携帯電話を使えば被災地と救援隊との連絡が正確かつ効果的にできるし、Eメールや写真の送信機能を使えば、被災者と家族との安否確認ができる。被災地の状況や怪我の程度、生存者の確認、救援対策の検討にも役立つ。1月8日には、災害救援時などの、緊急用電気通信機材の迅速かつ効果的な使用を可能とするためのタンペレ協定が発効され、今までしばしば見られた、受入国の規制による機材搬入時の障害妨害などが解消されるようになる(編集部注:同協定に関するPress-release和訳記事は、本誌2月号39ページにも掲載しているので、参考にされたい)。

2. ITU津波被災者を支援 ITU Mobilizes to Aid Tsunami Victims

ITUは、保有していた緊急用インマルサットの衛星地球局15局のうち7局をインドネシア政府に貸し出した。インドネシア政府は、最も被害の大きかったアチェ州の電気通信の再構築についても、ITUに支援を求めてきている。また、ITU・BDTは緊急用衛星地球局の貸し出し手順等を記した「Handbook on Emergency Telecommunications」を発行し、関係国や、OCHAといった国連機関へ配布した。また、ITUはジュネーブの職員を、バンコクとジャカルタの地域事務所の作業支援のために派遣した。さらに、1月の中旬日本の神戸で開催された国連防災世界会議にも担当者を派遣し、災害対応、防止、支援における通信の重要性を訴えるとともに、インマルサットと共同で、災害用緊急通信システムのデモを行った(編集部注:国連防災世界会議に関するMedia Advisory和訳記事は、本誌2月号40ページにも掲載しているので、参考にされたい)。2月22日には、WHOとともに、ジュネーブで開催されるWSIS Prep Com2の中で、「津波災害時の保健衛生に向けたICT」、「災害救助のために電気通信:タンペレ協定」の2つのテーマ会合を開く予定である。

3. 第7回WSISワーキンググループ会合 Seventh Meeting of the WG-WSIS

2004年12月13日と14日、ジュネーブにおいて第7回WSISワーキンググループ会合が開催された。決議のサ

マリーは以下のとおり。

1. ITUメンバーのWSIS関連活動への取組をもらさず WSISの現状調査に報告
 2. WSISテーマ別会合、地域会合への参加を含めた、セカンドフェーズの準備に向けてITUが積極的に主導し続けること
 3. ITUテーマ別会合（スパム対策）の議長レポートを、WSIS PrepCom-02に寄書する
 4. メンバー国やセクターメンバーは、WSISの目標に対して実現可能なフォローアップの方法を検討した上で、WSIS PrepCom2に報告
 5. 情報社会におけるITUの在り方に関する資料の更新を事務総局長に要請。本件についてのコメントは、2005年1月1日までに願います
 6. 2005年の理事会に向けたインターネットガバナンスに関する資料作成を事務局に要請。2005年1月31日までにWSIS WGメンバーに配布する
4. 調査と評価 Taking Stock of Stocktaking
- ジュネーブフェーズの成果であるWSIS基本宣言と行動計画の実施状況と情報社会への進捗状況を評価するため、WSIS事務局により現状調査が行われているが、2005年1月15日までに収集された約1,200件がPrep Com2に報告される。WSIS現状調査第1次レポートは、<http://www.itu.int/wsis/docs2/pc2/off6.doc>で公開されている。新しい活動報告も引続き受け付けており、6月30日までの分は、9月のPrepCom3で公表する予定である。

③ ITU-T e-FLASH No.12 (1月24日)

(出典：<http://www.itu.int/ITU-T/e-flash/012-jan05.html>)

- ・重要なネットワーク要素間のインターワーキングの標準 Standards Bring Interworking to Critical Network Components
- Ethernet-MPLS (multiprotocol label switching) のユーザープレーンにおけるインターワークの機能要求条件に関する新勧告案Y.1415がSG15会合でコンセンサスされた。シンプルで低コストのインタフェースの実現や10Mbit/sから1Gbit/sまでの速度を利用者が正確に指定することができる等の柔軟なサービスの提供が可能となり運用上の単純化とサービスの拡張性も改善され、将来のNGNでのMPLSの一層の活用も期待される。
- ・NGNグループの初成果 NGN Group Delivers First Output
- NGN Focus Group (NGNFG) は、NGNのサービス・機能規定、アーキテクチャ、信号プロトコルの最初の基本仕様セットであるリリース1に盛り込むための

Technicalレポートを取りまとめた。これは、昨年11月のSG11会合で承認されたQシリーズ勧告の補遺であるIPベースのQoS信号要求条件に関連したもの。QoS信号は、トラフィック制御やエンド-エンド間の品質保証サービスに重要な役割を果たす。ユーザーとネットワーク間 (UNI) やネットワーク間 (NNI) のインタフェースのIP-QoSに関する信号情報やその要求条件を明確にすることでNGNでのサービスに不可欠のプロトコル開発が促進される。

・IP分野向けの信号仕様 Signalling Specs Defined for the IP World

昨年12月のSG11会合において、狭帯域信号シンタックス (NSS) に関する新勧告Q.1980.1が承認された。これは、従来はSIPでは転送できなかったSS7の狭帯域信号 (ISUP) を転送するためのテキストベースのシンタックスを定義したもの。これにより、ISUPにマッピングされたPSTN/ISDNサービス信号パラメータをIP網でトランスペアレントな伝達ができるようにし、次世代IPベース網においてもPSTNサービス提供の道を開くものである。

・NGNコーディネーションに合意 Co-ordination for NGN Agreed

昨年10月に開催されたITU-T総会 (WTSA) において採択された、NGN検討をSG横断的に連携して推進するための裁定に基づき、NGNのリードSGであるSG13の昨年12月の会合期間中に、SG2、SG11、SG13、SG19のそれぞれのマネジメント担当者から構成されるNGN-JCA (Joint Coordination Activity) の会合が開催された。

・NGNと無線の融合に関するテクニカルレポート Report Assists Wireless Convergence

SSG (Special Study Group on IMT-2000 and Beyond) の後継であるSG19は、今会期も引き続いて移動通信ネットワークとモビリティに関するリードSGであるが、昨年12月の会合において、次世代移動網のプロトコル開発のためのNNIモビリティマネジメント要求条件を示す技術レポートを作成した。

・サイバーセキュリティ シンポジウムパート2 Cybersecurity II Confirmed

WTSAの開催に合わせて、昨年10月にブラジルのフロリアノポリスでサイバーセキュリティシンポジウムが開催されたが、セキュリティへの取組の重要性の認識が一層高まっているため、2005年3月29日にモスクワで開催されるRussian Association for Networks and Services (RANS) conferenceの初日に「Security and Trust for Infocommunication Networks Deployment」

を開催することとなった。

・次世代移動網のコアネットワーク標準 Core Network Standards for Next Gen Mobile

昨年12月のSG19会合において、米国ANSI (American National Standards Institute) の規格である「evolved core network with cdma2000 access network」をITU勧告案Q.1742.4としてコンセントした。これにより、無線部分のインタフェース企画であるITU-Rの勧告案M.1457と相俟って、狭帯域から広帯域にわたる音声、データ、マルチメディアの通信サービスが、世界規模で使えるようになることが期待される。

・標準化動向の収集 Tools Give Standards Makers Work Overview

本年1月に開かれたSG12の今期初会合において、NGN標準化作業の迅速化、効率化を図るため、2005年前半中にITU内外の標準化機関におけるNGN関連の最新の資料、情報を集め、関係者が閲覧できるようにすることが決まった。

④ITU-T e-FLASH No.13 (2月15日)

(出典：<http://www.itu.int/ITU-T/e-flash/013-feb05.html>)

・津波警報の国際会議へITU-TのZhao氏他出席 ITU-T's Zhao Attends Tsunami Early Warning Meeting

スマトラ沖地震の津波で大きな被害を受けたタイ南部ブーケットで、インド洋の津波警報システム構築へ向けて関係国が話し合う地域協力関係級会議が1月28～29日の日程で開催され、ASEAN諸国、日本、米国、中国、韓国や多数の犠牲者を出した北欧各国など43か国と13の国際機関が参加したが、ITUからは、Zhao ITU-T局長 (今回のITUからの代表団長) 及びITU-RとITU-Dの両局からの代表が出席した。Zhao団長は、津波警報システムの構築には、通信、放送、インターネット他の活用が必須であり、ITUは大きな貢献ができる旨の見解を示した。

・緊急時通信を考慮した標準 Standard for Disaster Relief

本年2月のSG9会合で新勧告J.260 (IPcablecomにおける緊急呼の取扱いの要求条件) を承認した。この勧告は、災害等の緊急時に優先すべき通信が輻輳等で阻害されないようにするためのもの。

・IPネットワーク上でのモデム信号の疎通 Modem Support in IP Networks

昨年2004年11月のSG16会合で新勧告V.152 (IPネットワーク上の音声帯域データの伝送手順) を承認した。この勧告は、音声帯域モデムやFAX等の信号をIPネッ

トワーク上で伝送させる手順に関するものであり、既存の勧告V.150.1 (IPネットワーク上のVシリーズDCEのエンド・エンド接続手順) を補完するもの。PSTNと接続されたIPネットワーク上でモデム信号等を伝送する、いわゆるMoIPの疎通と品質の確保を可能とする。

・ホームネットワークのワークショップ開催 Home Networking Event Announced

ITU-Tは、ホームネットワーキングシステムのワークショップを本年10月13～14の日程でジュネーブにおいて開催する。昨年2004年6月に東京で開催したホームネットワーキング・ホームサービスのワークショップの続編であり、SG9とSG12が他の関連SGやITU外の機関とも連携して準備を進める。通信・放送機器、デジタル家電、遠隔監視・制御等を有機的に相互接続させ普及を図るうえで標準化が要となっている。

・韓国でNGNワークショップ開催 Korea to Host NGN Overview

NGN-FG (フォーカスグループ) 会合が本年3月16～22日の日程で韓国の済州島で開催されるのに合わせ、ITU-TのNGNテクニカルワークショップが韓国政府の招請で3月14～15日の日程でロッテホテルで開催される。

・国際モータショーに併せてITU-TのICTワークショップを開催 Geneva Motor Show - ITU Event Speakers Announced

本年3月3～13日の日程で第75回国際モータショーがジュネーブで開催されるが、それに併せ、ITU-TのThe Fully Networked Car - ICT in Vehicles ワークショップが3月2～4日の期間に開かれる。

・サービスネットワーク運用グループ会合へのビデオメッセージ Video Address to Service and Network Operations Group

2月14日、オーストラリア、メルボルンで開かれた表記会合にTSB Zhao局長がビデオメッセージを送った。

・IP QoSに関する標準化作業が進展 Study Group Advances Standards for IP QoS

2004年12月のSG13で、VoIPの品質や診断に対するパラメータを含めるべくG.1020の勧告案の見直しを行った。また、IP網上でのネットワークパフォーマンスを規定するY.1541についてもQoSを取り入れる方向で見直しを検討している。

⑤WSIS e-FLASH No.20 (2月4日)

(出典：<http://www.itu.int/wsisis/newsroom/eflash/2005/number20.html>)

・WSISチュニス会合第2回準備会合について WSIS PrepCom-2 of the Tunis Phase

2005年11月16～18日にチュニジアのチュニスで開催される、WSISチュニスフェーズの第2回準備会合が2005年2月17～25日にスイスのジュネーブで開催される。本会合では、2003年の12月にジュネーブで合意されたWSIS行動計画の進捗状況等を評価する。

詳細は、以下のInformation Noteをご覧ください。
(http://www.itu.int/wsis/newsroom/press_release/wsis/2005/04feb.html)

・議長フレンズ会合の報告文書が完成 **Outcome documents of the Group of Friends of the Chair available**

議長フレンズ会合（GFC: The Group of Friends of Chair）はPrepCom-2での討議のベースとする文書をまとめた。チュニスフェーズでは、Political ChapeauとOperational Partの2つのパートからなる文書を合意する予定であり、今回の文書はこのための討議資料として使われる。今回まとめられた文書についてのコメントはWSIS-contributions@itu.intで受け付けている。送付されたコメントは、PrepCom2への寄書としてWSISのウェブサイトにも掲載される。

・Prepcom2の議事・日程について **Provisional Agenda and Time Management Plan of PrepCom-2**

2005年1月12日の、地域代表国政府により構成されるビューロー会合において、PrepCom2の議事・日程が決定された。www.itu.int/wsis/docs2/pc2/off1.docとwww.itu.int/wsis/docs2/pc2/adm2.docで公開されている。また、PrepCom2における全文書もWSISのウェブサイト、www.itu.int/wsisで公開されている。

・オンライン登録を **Online registration strongly advised**

2005年1月5日からオンライン登録が始まった。PrepCom2へ参加を希望する方は、指定された資格審査機関を通して登録されたい。登録用紙は、www.itu.int/wsis/preparatory2/pc2/index.html#registrationにある。登録にはITU/WSISの登録チームにより与えられたユーザーネームとパスワードが必要。問い合わせはwsis-pc2-registration@itu.intまで。

・WGIG（インターネットガバナンス・ワーキンググループ）：**PrepCom2の直前に公開協議 WGIG: Open consultations back-to-back with PrepCom-2**

WGIGは2005年2月14日から16日までジュネーブの国連で開かれる。2004年11月のWGIGの第1回会合で作成されたinventory list of issues and prioritiesに従って、作成された資料について討議する。WSISへの参加

資格を持っていない方で、本会合に参加希望の方はWGIGの事務局へ直接申し込みをされたい。

・TFFM（ファイナンシャルメカニズムタスクフォース）の報告が閲覧可能に **Report of TFFM now available**

WSISのジュネーブ会合で、国連のアナン事務局長の指示により結成されたTFFMは、デジタル・デバイド解消に向けて、既存のファイナンシャルメカニズムだけで十分であるか否かを検討した。TFFMの検討結果は、WSISのウェブサイトで見ることができる。

・WSISチュニスフェーズに向けての行事予定 **Upcoming events related to the Tunis phase of WSIS**

WSIS地域準備会合：
・2005年2月2～4日、ガーナのアクラで、WSISチュニス会合へ向けたアフリカでの地域準備会合が開催される。

WSISテーマ別会合：

・2005年1月17～19日、グアテマラのアンティグアで、ILO（国際労働機関）、ITC（国際貿易センター）、OECD（経済協力開発機構）、UNCTAD（国連貿易開発会議）が、“ICTが経済的、社会的にもたらすもの”というテーマ会合を開催する。ICTによる持続的な経済成長を実現するための政策や実施方法について協議する。主催はグアテマラ政府で、IDRCとフランス政府がスポンサーとなる。

・2005年1月21日、日本の神戸で、世界気象機関（WMO）は、「自然災害防止に向けたICTの利用」と題するWSISテーマ会合を開催した。会合は、2005年1月18～22日に神戸で行われた国連防災世界会議の中で開かれた。インマルサット及び早稲田大学とともにITUも“電気通信は生命を救う”のテーマのもと、災害の予防と復旧におけるICTの役割に関するワークショップを開催した。会合結果については、www.iisd.ca/vol26/enb2609e.htmlをご覧ください。

・2005年2月7～9日、スイスのジュネーブで、“Partnership on Measuring ICT for Development”世界会合が開かれた。2004年の第4四半期に開催された各地域の情報社会の普及指標に関するワークショップの結果をまとめたもので、今後の情報社会の進展をどう評価していくかに関して、WSISの第2フェーズに寄書する予定。ITU、OECD、UNCTAD、UNESCO、UIS、ECA、ECLAC、ESCAP、ESCWA、UNICTタスクフォース、世界銀行が主催した。